

令和7年度ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（東北メディカル・メガバンク計画）

事後評価 評価コメント

評価課題名	研究開発 代表者名	所属機関	役職
東北メディカル・メガバンク計画（東北大学）	山本 雅之	東北大学	教授

【評価コメント】

震災後の要求度の高い研究を堅牢な組織管理体制の下、代表者のビジョンが実務メンバーに共有され、一丸となって取り組んでいる。計画に掲げた課題は概ね達成され、次世代医療に有用な成果物、具体的には、試料・情報収集の目標達成や世界的にも貴重な三世代コホートの運営、健康ポータル構築、企業との連携も進展している。

次期以降については、研究成果の社会実装等の観点で評価可能な KPI を明示する等、研究計画段階で定量的な目標設定の上、進めて欲しい。また、コホート調査においても、調査参加者数を維持する工夫を続け、前向きコホートとしての価値の維持（向上）を図ると共に、バイオバンク事業に対する社会的認知をさらに向上させるための広報（社会実装に向けた活動等）により一層取り組んで頂きたい。

今後、国費等および国内外の民間などとの共同研究による出資を通して、各出資用途に明確に応え、継続性あるバイオバンクの研究開発とその成果を描くことが重要である。それら成果の積み重ねから、社会実装につなげていくバイオバンクとして加速して頂きたい。引き続き、コホート・バイオバンクの活動を継続し、個別化予防・医療の実現に向けてさらに発展・貢献することを期待する。